

- ・大藪岳史「大学における同和・人権教育交流会の概要」
『部落問題研究』145号(部落問題研究所、1998年12月)
- ・岸本 実／喜田明人他編「人権教育をつくる」
- ・『部落問題研究』146号(部落問題研究所、1999年3月)
- ・川辺 勉「1997年度同和教育研究の成果と課題」
- ・石村榮一「一提言一今、子どもたちは夢・わたし・未来」
『部落問題研究』147号(部落問題研究所、1999年5月)
- ・小林 優「[人権教育]を利用した教育施策の特徴一大阪市の場合一」
- ・吉田一郎「道徳教育と[人権教育]」
- ・八木英二「世界人権宣言50年と[人権教育]」
- ・村上 保「兵庫県教育委員会[人権教育基本方針]策定の経過と問題点」
- 『部落問題一調査と研究一』132号(岡山部落問題研究所、1998年2月)
- ・吉永隆光・安東 誠「人権と民主主義の学習[草稿・上]一1985年以降一」
『部落問題一調査と研究一』134号(岡山部落問題研究所、1998年6月)
- ・岩間一雄「同和問題はいま・パート2(下)」
- ・安東 誠「人権と民主主義の学習【草稿・下】」
『部落問題一調査と研究一』135号(岡山部落問題研究所、1998年8月)
- 中島純男「同和地区児童生徒の基礎調査の問題点〈教育〉
〈モ〉」
『もやい』38号(長崎県部落史研究所、1999年3月)
- ・野本美知子「夢・わたし・未来-体験的参加型学習への展望」
- ・川副忠子「体験的参加型学習を通して核廃絶を考える」

- ・白石義則「戦後社会科教科書と同和教育」
『部落解放闘争』26号(部落解放理論センター、1998年1月)
- ・中田 潔「教育問題と婦人の組織化 解放教育のためにも家賃値上げ絶対反対を」
『部落解放闘争』27号(部落解放理論センター、1998年7月)
- ・大阪・労働者「『同和教育』(解放教育)から『人権教育』への転換にはらむ危険性」
『部落解放なら』8号(奈良県部落解放研究所、1997年12月)
- ・梅田昌彦「奈良の同和教育と教育改革」
『部落問題—調査と研究—』138号(岡山部落問題研究所、1999年2月)
- ・近藤幸夫「『同和地区生徒・児童の基礎調査』に正当性・適法性は認められるか」
『月刊部落問題』254号(兵庫部落問題研究所、1998年2月)
- ・山元 佑「『中・高連絡カード』問題—教育現場に問われていること」
『月刊部落問題』255号(兵庫部落問題研究所、1998年3月)
- ・「『人権教育の在り方について』に対する全解連兵庫県連の見解」
- ・「『人権教育の在り方懇話会報告』に対する兵庫高教組中央執行委員会見解」
- ・梅田 修「『人権教育』への再構築をめぐる」
『月刊部落問題』257号(兵庫部落問題研究所、1998年5月)
- ・若林正昭「『人権教育基本法』を読む」
『月刊部落問題』258号(兵庫部落問題研究所、1998年6月)
- ・景山一正「『同和地区児童生徒基礎調査』と称した『身分調査』」
『月刊部落問題』261号(兵庫部落問題研究所、1998年9月)
- ・齋藤浩志「『『人権教育の再構築』を読む」
- ・杉尾敏明「人権教育再構築の論点・視点」
- ・石川元也「『同和教育』の継続でない真の『人権教育』を！」
- ・出口俊一「『同和教育の終結』論を克服し、人権教育の再構築を！」
『月刊部落問題』262号(兵庫部落問題研究所、1998年10月)
- ・丹波正史「四極による『同和教育』の構造化と全同教の偏向教育路線」
- ・杉尾敏明「全同教の『研究課題』批判」
- ・谷口幸男「全同教『研究課題』を一読して」
- ・村上 保「全同教『研究課題』(案)の批判的検討」
『月刊部落問題』267号(兵庫部落問題研究所、1999年3月)
- ・前田昌彦「兵庫県人権教育の基本方針から見えてくるもの」
『部落問題研究』142号(部落問題研究所、1997年12月)
- ・谷口幸男「1996年度の同和教育研究の成果と課題」
『部落問題研究』143号(部落問題研究所、1998年5月)
- ・吉田一郎「『人権教育』論と観念的道德教育論」
- ・梅田 修「『同和教育』から『人権教育』への転換の諸相—政府・自治体の対応を中心に—」
『部落問題研究』144号(部落問題研究所、1998年6月)
- ・梅田 修「教育分科会：文部省が示した『人権教育』の特徴—人権擁護推進審議会での文部省報告—」
- ・工藤 毅「教育分科会：憲法・教基法に基づく公教育の解体と同和教育」
- ・八木英二「教育分科会：『国連人権教育10年』と人権教育」
- ・畦地享平「教育分科会：討議」

- ・徳山 茂「子どもたちに育ててもらいながら25年」
- ・寺澤亮一「人権教育としての同和教育を」
- ・岸田章子「部落解放運動における識字運動」
『部落解放』452号(解放出版社、1999年4月)
- ・松村智広「きょうびの若いもんはええ」
- ・森 実「自己決定論をふまえた人権教育戦略を」
- ・前田博文「同和教育から人権教育の発信を」
- ・寺澤亮一「人権教育としての同和教育を」
- ・友永健三「同和教育を人権教育の重要な柱に」
『部落解放研究』120号(部落解放研究所、1998年2月)
- ・元木 健「人権教育のための国連10年」によせて一
国連行動計画と国および大阪府・大阪市行動計画の比較検討一
- ・中川喜代子「人権教育における参加型学習一導入・展開の可能性と課題を考える一」
- ・深海達之「改革「部落問題学習」・考」
- ・松下一世「大阪の同和教育の到達点と課題(後)一全同教大会実践報告の実証的テキスト分析を通して一」
『部落解放研究』122号(部落解放研究所、1998年6月)
- ・野口克海「教育改革と同和教育」
- ・桂 正孝「「新しい教育運動」をどうつくっていくか」
- ・高田一宏「大阪の教育改革、今後の課題を探る『学力生活総合実態調査集計結果の分析と考察について』を読んで」
- ・東青少年会館職員集団編「貝塚市立東青少年会館の取り組み状況」
- ・北林伸造「地域の教育力の向上をめざして一松原市青少年会館の取り組み状況」
- ・畠山眞悟「個人情報保護条例と直面する学校教育の課題」
- ・松尾純代「人権保育としての同和教育を一さらなる発展をめざして一」
『部落解放研究』124号(部落解放・人権研究所1998年10月)
- ・岩槻知也「「大阪府識字学級・日本語読み書き教室等学習者調査」の結果を読む」
『部落解放研究』126号(部落解放・人権研究所、1999年2月)
- ・森 実「アジア・太平洋人権教育国際会議をふりかえって」
『部落解放研究』127号(部落解放・人権研究所、1999年4月)
- ・金子伊智郎「解放教育における障害児教育の位置について」
『部落解放ひろしま』40号(部落解放同盟広島県連合会、1999年4月)
- ・岡田英治「広島・教育への政治介入の本質一「日の丸・君が代」の不合理性が全国へ、守り抜いた内面の自由一」
- ・金子マーティン「日本国の戦後処理と日本人の戦争観～「記憶の暗殺者」集団批判～日本人によるナチス犯罪の〈誇張〉と〈否定〉(上)」
『部落解放史・ふくおか』86号(福岡部落史研究会、1997年6月)
- ・松下志朗「「同和」教育への想い」
- ・山口裕之「より豊かな部落問題学習の創造に向けて一学校現場と研究者との連携について一」
『部落解放史・ふくおか』88号(福岡部落史研究会、1997年12月)
- ・かとうよういち「生活綴り方を超えて」
- ・松永唯道「生活綴り方と「同和」教育を整理する視点」
- ・谷口研二「書くこととつなぐこと」
『部落解放史・ふくおか』92号(福岡部落史研究会、1998年12月)

- こに行くのか」
- ・山脇正孝「〈投稿〉滋同教の解散を提起する～滋賀の同和教育の終結をめざして」『部落』642号(部落問題研究所、1999年1月)
 - ・桑原真治／河野みどり／高木 純／田淵 豊／橋本 昭／山田豊司／東上高志 司会＝構成「座談会「解同路線」の総決算へ一意さかんな徳島県とのたたかい」
 - ・三枝茂夫「人権感覚鈍麻の体制に風穴を一埼玉県の同和地区児童調査廃止の取り組み」『部落』643号(部落問題研究所、1999年1月)
 - ・梅田 修「「国連人権教育の10年」と「人権教育」～政府・自治体の対応を中心に～」
 - ・成澤榮壽「昨今の教育改革を考える～「心の教育を」中心に」
 - ・井上治夫／西條久代／向井宗一／河瀬哲也(司会)「主人公の子ども～今、求められている保育・教育」『部落』644号(部落問題研究所、1999年2月)
 - ・東上高志「第22回大学における人権・同和教育交流会」『部落』646号(部落問題研究所、1999年4月)
 - ・畦地享平「「人権教育」をめぐる状況と教育実践上の課題」
 - ・一井正好「大阪／和泉市長「地区児童・生徒調査」問題で名言」
 - ・柏木 功「「同和教育」から「人権教育」への転換—大阪市の場合」
 - ・谷口幸男「同和教育の終結をめざして—「提言 同和教育の終結をめざして」発刊にあたって」『部落解放』433号(解放出版社、1998年2月)
 - ・易 寿也「高校改革と人権教育」
 - ・玉置哲淳「「人権教育のための国連10年」と就学前教育」『部落解放』434号(解放出版社、1998年3月)
 - ・「第8分科会解放教育の課題」
 - ・「第9分科会解放保育の課題」
 - ・中川喜代子「意見発表2「人権教育のための国連10年」と行動計画の策定」『部落解放』436号(解放出版社、1998年4月)
 - ・角田幸一「豊かな出会いをとおして進路保障を」
 - ・糺 秀章「高校システムの改革を」
 - ・小西清則「求められる大胆な教育改革」
 - ・高槻市立第四中学校「小・中・子の連携で進路保障を」
 - ・平田 昭「生徒のくやしさを共有する」『部落解放』446号(解放出版社、1998年12月)
 - ・玉置章子「人権保育の創造にむけて」
 - ・堀 正嗣「これからの同和保育を考える」
 - ・森田明美「保育一元化に必要な視点」『部落解放』448号(解放出版社、1999年1月)
 - ・長尾彰夫「教育改革の展望」
 - ・小西清則「生活を高め未来をきりひらく」
 - ・早川勝広「これからの同和保育・人権保育」『部落解放』449号(解放出版社、1998年2月)
 - ・「[大阪宣言]21世紀に向けた人権教育の挑戦」『部落解放』450号(解放出版社、1999年2月)
 - ・「解放保育の課題」
 - ・「解放教育と人権教育の創造～人権を基調とした教育の構造的転換を～」

- 人権教育リーダーを育てる第10回 気づきのトレーニング：その2」
『ヒューマンライツ』133号(部落解放・人権研究所、1999年4月)
- ・田上時子「子どもと暴力・考 第10回 「よい子」の非行」
『ヒューマンライツ』134号(部落解放・人権研究所、1999年5月)
 - ・森田ゆり「多様性トレーニングガイドー 人権教育リーダーを育てる 第11回 気づきのトレーニング：その3」
 - ・田上時子「子どもと暴力・考 第11回 子どもへの暴力防止策の間違い」
『ひょうご部落解放』82号(兵庫部落解放研究所、1998年7月)
 - ・堀 克祐「人間解放をめざした真に自由な教育を フリースクールからの提言」
『ひょうご部落解放』83号(兵庫部落解放研究所、1998年9月)
 - ・春川政信「解放学級は人権教育の瞳であり発信基地である」
『ひょうご部落解放』第84号(兵庫部落解放研究所、1998年11月)
 - ・池田勝雄／池田千津美／桜井輝之／辻本久夫／平本弘富美／森本正行／吉澤恵次「座談会「人権教育基本方針」をよむ」
 - ・「資料 人権教育基本方針、同和教育基本方針」
 - ・吉澤恵次「「国連人権教育10年」兵庫県行動計画を」
 - ・久野禮子「ジェンダーの視点から「人権教育10年」を考える」
〈フ〉
『部落』630号(部落問題研究所、1998年2月)
 - ・全解連・滋賀県連「特別な教育を廃止し、すべての子ども達に豊かな教育を」
『部落』631号(部落問題研究所、1998年3月)
 - ・蓮井政勝／山中邦夫／竹田政信／東上高志 司会・構成「座談会 同和教育子ども会を全町の子ども会へ」
 - ・増山 均「「地域子ども会」をめぐる今日的課題」
『部落』634号(部落問題研究所、1998年6月)
 - ・八木英二「学校現場の人権を考えるーあまり知られていない教師の過労ー」
『部落』636号(部落問題研究所、1998年8月)
 - ・梅田 修「「参加型学習」と部落問題学習」
 - ・田所顕平「中世社会のとらえ方と授業、それに方法」
『部落』637号(部落問題研究所、1998年8月臨時増刊号)
 - ・河原尚武「学校の教育課程はどのように変わろうとしているか」
 - ・重岡武興「広島／全国的な問題になった広島の教育」
『部落』638号(部落問題研究所、1998年9月)
 - ・河原尚武「学校の教育課程はどのように変わろうとしているか」
 - ・重岡武興「広島／全国的な問題になった広島の教育」
『部落』639号(部落問題研究所、1998年10月)
 - ・同和加配教員を廃止して「教育困難校加配」へ」
 - ・中島純男「「同和地区児童・生徒の基礎調査」の中止にむけた岡山県でのとりくみ」
 - ・植山光朗「「文部省による「平成の人別改め」」
『部落』641号(部落問題研究所、1998年12月)
 - ・川崎 誠／重岡武興／西谷 章／山田昭／東上高志「座談会・広島の教育はど

- 一「教育改革」の行方、教育の反動化に抗して」
- 『どの子ども伸びる』272号(部落問題研究所出版部、1999年4月)
- ・谷口幸男「『同和教育』『人権教育』を考える一」
- 〈ヒ〉
- 『ヒューマンライツ』123号(部落解放研究所、1998年6月)
- ・森田ゆり「多様性トレーニングガイドー人権教育リーダーを育てる 第1回連載をはじめるにあたって」
- 『ヒューマンライツ』124号(部落解放・人権研究所、1998年7月)
- ・森田ゆり「多様性トレーニングガイドー人権教育リーダーを育てる 第2回序文
 - ・田上時子「子どもと暴力・考 第1回 私が関わるようになった理由」
- 『ヒューマンライツ』125号(部落解放・人権研究所、1998年8月)
- ・森田ゆり「多様性トレーニングガイドー人権教育リーダーを育てる 第3回 多様性とは何か」
 - ・田上時子「子どもと暴力・考 第2回 テレビ暴力」
- 『ヒューマンライツ』126号(部落解放・人権研究所、1998年9月)
- ・森田ゆり「多様性トレーニングガイドー人権教育リーダーを育てる 第4回 多様性受容力(Diversity Competence)」
 - ・田上時子「子どもと暴力・考 第3回 “親業”は学ぶもの」
- 『ヒューマンライツ』127号(部落解放・人権研究所、1998年10月)
- ・森田ゆり「多様性トレーニングガイドー人権教育リーダーを育てる 第5回 文化の意味」
 - ・田上時子「子どもと暴力・考 第4回 “いじめ”にどう取り組む？」
- 『ヒューマンライツ』128号(部落解放・人権研究所、1998年11月)
- ・森田ゆり「多様性トレーニングガイドー人権教育リーダーを育てる第6回 トレーナーに求められること：その1」
 - ・田上時子「子どもと暴力・考 第5回 いじめ対策ーカナダの事例から」
- 『ヒューマンライツ』129号(部落解放・人権研究所、1998年12月)
- ・森田ゆり「多様性トレーニングガイドー人権教育リーダーを育てる第7回 トレーナーに求められること：その2」
 - ・田上時子「子どもと暴力・考 第6回 いじめ対策ーカナダの事例から(2)」
- 『ヒューマンライツ』130号(部落解放・人権研究所、1999年1月)
- ・森田ゆり「多様性トレーニングガイドー人権教育リーダーを育てる第8回 アイス・ブレイカー：その1
 - ・田上時子「子どもと暴力・考 第7回 子どもへの虐待ー大人の意識を変えよう」
- 『ヒューマンライツ』131号(部落解放・人権研究所、1999年2月)
- ・田上時子「子どもと暴力・考 第8回 被害者へのサポート体制ーカナダの実践」
 - ・森田ゆり「多様性トレーニングガイドー人権教育リーダーを育てる第9回 気づきのトレーニング：その1」
- ・ジェファーソン・プランテリィア「人権は法律違反？～アジア・太平洋人権教育国際会議を終えて」
- 『ヒューマンライツ』132号(部落解放・人権研究所、1999年3月)
- ・田上時子「子どもと暴力・考 第9回 続・被害者へのサポート体制ーカナダの実践」
 - ・森田ゆり「多様性トレーニングガイドー

- 21世紀に向けた人権教育戦略の挑戦
アジア太平洋地域と危機と変革のとき
に」
- ・「人権教育データベース・世界／日本(大阪宣言)21世紀にむけた人権教育の挑戦—人権の普遍的实现をもたらす世紀」
〈ス〉
『スティグマ』31号(千葉県人権啓発センター、1998年2月)
 - ・「人権教育のための国連10年」からみえるもの—県内行動計画推進」
『スティグマ』36号(千葉県人権啓発センター、1998年7月)
 - ・古賀芳夫「千葉県同教問題と東日本の同和教育の課題」
〈ト〉
『どの子ども伸びる』256号(部落問題研究所、1998年2月)
 - ・谷口正暁「学級づくり⑩受けとめる(1)「いじめ」より「部落」のほうが重い?—「解放教育」にみる子ども像—」
 - ・梅田 修「人権教育」のゆくえ⑩文部省が考える「人権教育」(1)」
『どの子ども伸びる』257号(部落問題研究所、1998年2月)
 - ・河瀬哲也「同和教育の終結と主権者を育てる教育実践」
『どの子ども伸びる』258号(部落問題研究所、1998年3月)
 - ・梅田 修「人権教育」のゆくえ⑫文部省が考える「人権教育」(2)」
『どの子ども伸びる』259号(部落問題研究所、1998年4月)
 - ・大阪はぐるま研究会社会科部会「同和教育の終結をめざす」
『どの子ども伸びる』261号(部落問題研究所、1998年6月)
 - ・永田喜久「どの子ども伸びる研究会の主張—子どもの荒れの現状とその背景—子どもがキレる現実をどうとらえるか」
 - ・西村 徹「同和教育の終結を目指す 生駒の地に見る「同和教育終結」を展望する最近の動き」
『どの子ども伸びる』262号(部落問題研究所、1998年7月)
 - ・村橋 端「同和教育の終結を目指す 同和教育終結のために」
『どの子ども伸びる』263号(部落問題研究所、1998年8月)
 - ・山田 昭「同和教育の終結を目指す 晒け出された「解放教育」の傷跡同和教育の終結こそ、学校再生の展望」
『どの子ども伸びる』264号(部落問題研究所、1998年9月)
 - ・森下 亨／藤野浩巧／藤本修子「同和教育の終結をめざして」
『どの子ども伸びる』265号(部落問題研究所、1998年10月)
 - ・橋田早苗「同和教育の終結をめざす 高和市における同和教育終結に向けての現状と課題」
 - ・梅田 修「教育時評「人権教育」のゆくえ(19)」
『どの子ども伸びる』266号(部落問題研究所、1998年11月)
 - ・宮川新司「同和教育の発展的解消と「人権教育」」
『どの子ども伸びる』267号(部落問題研究所、1998年12月)
 - ・山崎雄介「どの子ども伸びる研究会の主張—教育課程審議会答申を読む(下)」
 - ・梅田 修「人権教育」のゆくえ(2)「人権教育指定校」事業の2年目」
『どの子ども伸びる』269号(部落問題研究所、1999年1月)
 - ・東川嘉一「同和教育の終結をめざす 滋賀県における同和教育終結の流れ」
『どの子ども伸びる』271号(部落問題研究所出版部、1999年3月)
 - ・村橋 端「どの子ども伸びる研究会の主張

- ・坂口俊広「高等学校における公正採用選考の取り組み」
 - ・小谷俊行「高等学校の同和教育」
- 〈コ〉
- 『国民融合通信』288号(国民融合をめざす部落問題全国会議、1998年5月)
- ・「『人権教育の在り方懇話会報告』に対する兵庫県高教組中央執行委員会見解」
 - ・〈資料〉①人権教育の在り方について(要旨)兵庫県人権教育のあり方懇話会」
- 『国民融合通信』290号(国民融合をめざす部落問題全国会議、1998年7月)
- ・鈴木 良「『人権教育』を考える」
- 『国民融合通信』292号(国民融合をめざす部落問題全国会議、1998年9月)
- ・西谷 章「広島県東部地域の変化と部落問題—文部省調査団をめぐって(上)」
- 『国民融合通信』293号(国民融合をめざす部落問題全体会議、1998年10月)
- ・国広悦正「体験・参加型『人権教育・啓発』に対する批判」
- 『こべる』60号(こべる刊行会、1998年3月)
- ・山下 力「解放へと導く力を育むために(下)—奈良におけるアンケート調査から」
- 〈シ〉
- 『月刊滋賀の部落』285号(滋賀県同和問題研究所、1998年11月)
- ・滋賀県同和問題研究所「『人権教育のための国連10年滋賀県行動計画(素案)』に対する意見及び質問」
 - ・「『人権教育のための国連10年滋賀県行動計画』に対する見解」
 - ・滋賀県人権教育のための国連10年推進本部「資料・人権教育のための国連10年滋賀県行動計画」
- 『月刊滋賀の部落』287号(滋賀県同和問題研究所、1998年12月)
- ・杉山 悟「啓発の強調は問題のすり替え『人権教育のための国連10年滋賀県行動計画』批判」
- 『月刊滋賀の部落』288号(滋賀県同和問題研究所、1999年1月)
- ・藤田照久「『人権教育のための国連10年滋賀県行動計画』批判的検討」
- 『月刊滋賀の部落』289号(滋賀県同和問題研究所、1999年2月)
- ・川辺 勉「『人権教育』の強調と体験的参加型学習の諸相(1)」
- 『月刊滋賀の部落』290号(滋賀県同和問題研究所、1999年度特別号)
- ・山脇正孝「『解放教育』は『国際人権教育』に出会い、どんな『同和教育』を発見したか」
- 『人権教育』7号(人権教育研究所、1999年5月)
- ・箕浦政直「学習活動を創る—ロールプレイを用いて(結婚と部落問題) あなたが回答者なら」
 - ・PRIA/山下 泉訳「参加型研修方法論の手引きII 参加型学習方法放論の確立をめざして」
 - ・花立都世司「本の紹介 〈私〉をかたる、ということ—セクシュアリティをめぐって」
 - ・朴 君 愛「発信する NGO/ERIC=国際理解教育センター」
 - ・Jプランティア/園崎寿子訳「アジア太平洋地域の人権教育」
 - ・野入直美「特集/子どもとの対話が学校を変える アメラジアン教育権 沖縄発の教育運動」
 - ・高取昌二/やまぐちまさゆき「特集/子どもとの対話が学校を変える 同性愛者として・続報 セクシュアリティを考えるために」
 - ・「人権教育データベース・世界/日本」

- ・森口健司「差別意識を洗う社会科授業の展開をめざして」
- ・塚本和子「これからの解放保育の課題」
- ・前川 実「『未来のための教育』を構想する これからの人権教育」
『解放教育』374号(明治図書、1999年2月)
- ・前川 実「はだいろクレヨンと多文化主義」
- ・糺 秀章「『自分さがし』から『ライフプランニング』へ」
- ・桜井輝之「兵庫の『トライやる・ウィーク』」
- ・高木典子「若年失業時代の到来」
『解放教育』375号(明治図書、1999年3月)
- ・新居晴幸「教育改革としての学校間連携の拡大を」
- ・川瀬俊治「夜間中学ゼロ地域で自主夜中運動広がる」
- ・前川 実「『未来のための教育』を構想するーアメリカで出会った同和教育ー」
- ・田村賢一「『新しい教育運動』がめざすもの」
- ・「布忍小学校の教育改革(2)人権総合学習・ぬのしょうタウン・ワークス」
「地域と結んだ新しい人権総合学習の展開」
「福祉・ボランティア活動を通して(3年)」
「父母の労働に学ぶ(4年)」
「多文化共生教育(5年)」
- ・桂中学校「アプローチレッスン」
『解放教育』376号(解放教育研究所、1999年4月)
- ・長島智典「第13分科会 人権教育～基調提案から～子どもたちの中に差別の現実を読む」
- ・秦 政春「学級崩壊と教師」
『解放研究とっとり』創刊号(鳥取県部落解放研究所、1999年3月)
- ・小谷俊行「高等学校の同和教育」
- 『月刊解放の道』170号(全国部落解放運動連合会、1998年3月)
- ・「人権教育をめぐる問題について」
『月刊解放の道』172号(全国部落解放運動連合会、1998年5月)
- ・梅田 修「文部省が示した『人権教育』：一人権擁護推進審議会での文部省報告ー」
『月刊解放の道』174号(全国部落解放運動連合会、1998年7月)
- ・村崎勝利／西村導郎共著「第4回部落問題全国自治体交流集会第二分科会 同和教育廃止の取り組み」
『月刊解放の道』176号(全国部落解放運動連合会、1998年9月)
- ・中島純男「岡山県での『同和地区児童・生徒の基礎調査』の中止にむけたとりくみ」
『月刊解放の道』181号(全国部落解放運動連合会、1999年2月)
- ・梅田 修「道徳教育としての『人権教育』への傾斜～審議会における『人権教育』論議の特徴」
『月刊解放の道』182号(全国部落解放運動連合会、1999年3月)
- ・植山光郎「教育の中立を蹂躪する九州の解放教育ー熊本、大分、福岡三県の現場からー」実践
<ク>
- 『グローブ』12号(世界人権問題研究センター、1998年1月)
- ・岡崎 裕「人権教育のための国連10年 その背景とその意義」
『グローブ』13号(世界人権問題研究センター、1998年4月)
- ・中島智子「人権教育のための国連10年 学校改革としての多文化教育」
<ケ>
- 『研究紀要 解放研究とっとり』1号(鳥取県部落解放研究所、1999年3月)

- 『解放教育』364号(明治図書、1998年4月)
- ・志水宏吉「「キレル」子ども「切れない」教師」
 - ・秦 正春「ストレスの中の子どもたち」
- 『解放教育』366号(明治図書、1998年6月)
- ・川向秀武「被差別の子らと本当に出会ったのか」
 - ・志水宏吉「教師が実践を書くこと」について」
 - ・田村賢一「保護者にとっても貴重な財産」
 - ・前川 実「アジアで出会った同和教育」
- 『解放教育』367号(明治図書、1998年7月)
- ・黒沢惟昭「システム社会の進展と教育の病理」
 - ・玉置哲淳「旧教育の破産の宣言」
 - ・長尾彰夫「中教審・中間報告の権力的構造を問う」
 - ・清原正義「地方分権と教育行政改革」
 - ・西田雅一「青少年会館・児童館の視点から考えたこと」
 - ・松下一世「アメリカの人権教育と日本の同和教育」
- 『解放教育』368号(明治図書、1998年8月)
- ・金 泰 泳「「在日」のはざまを生きる子どもたち」
 - ・李 順 愛「差別と人権教育」
 - ・「『人権教育のための国連10年大阪府行動計画』実施プログラム」
 - ・前川 実「タイの人権教育 NGO マヤとの出会いの中で」
 - ・寺澤亮一「人権教育を展望した同和教育の推進」
- 『解放教育』369号(明治図書、1998年9月)
- ・池田 寛「学力論再考—学習論の最前線から」
 - ・高田一宏「教育調査と教育改革—大阪の学力・生活実態調査をふりかえって」
 - ・外川正明「これからの学力保障を考える—同和教育の「新たな創成」に向けて」
 - ・金 泰 泳「「在日」の学力保障の条件—家庭の教育力に焦点をあてて」
 - ・山中多美男「「新しい学力観」と地域教育改革運動」
 - ・前川 実「地球的課題と同和教育」
- 『解放教育』370号(明治図書、1998年10月)
- ・中野陸夫「部落史学習を見直す—視点」
 - ・高美南小学校総合学習「ニュータウンへようこそ」
- 『解放教育』371号(明治図書、1998年11月)
- ・松浦洋子「さがしてみようタイムスリップ町じまん」
 - ・御所市立大正中学校「「人権と共生の世紀」をきりひらく新しい大中づくりを」
 - ・桂 正孝「思春期における〈鞭〉と〈壁〉」
 - ・寺澤亮一「人権教育としての同和教育」
- 『解放教育』373号(明治図書、1999年1月)
- ・岡田健悟「部落解放教育の現状の打開を求めて」
 - ・小島伸豊「今日の集会、集まるやろか—人権教育の時代の教育保護者活動を模索する」
 - ・新居晴幸「教育危機の構図—教育改革を停滞させる大阪府財政再建プログラムに抗して」
 - ・奥田 均「「戦略」を打ち立てる年に」
 - ・赤尾勝己「生涯学習計画と人権学習」
 - ・嶺井正也「インクルーシブ教育の実現をめざして」
 - ・田中欣和「人権意識調査が示唆するもの—現段階での教育の課題にむけて」
 - ・中村清二「問われる部落問題調査のあり方」
 - ・長尾彰夫「講演会「教育改革と教職員組合その国際比較」をめぐって」
 - ・カルロス・A・トレス／木村理恵子訳「講演「教育改革と教職員組合その国際比較」」
 - ・池田 寛「総合学習の探究 富田小学校の場合」

- くりを」
- ・升井見永子「市民がつくる 子育て支援ネットワーク 子育てでつながるみんなの力」
- ・森田明美「幼稚園教育要領改訂が明らかにした幼児教育の課題」
『はらっぱ』184号(子ども情報研究センター、1999年4月)
- ・浜田寿美男「いま子どもたちの生きるかたち『現代個立の風景』」
- ・「第2回保育一元化共同フォーラムが開かれる 子どもの育ちを支える地域づくり」
- 〈フ〉
『福祉労働』82号(現代書館、1999年3月)

- ・平井誠一「教育とは、障害の軽減や教科を教えることだけではない」
- ・岡村達雄／神本美恵子／名谷和子／矢作美恵子／北村小夜=司会「座談会 分離と「統合」の再編が進む～文部省の各審議会答申をどう読むか～」
『文藝春秋』5号(文藝春秋、1999年5月)
- ・入江吉正「広島世羅高・校長はなぜ死を選んだか」
〈レ〉
『歴史評論』579号(校倉書房、1998年7月)
- ・江里 晃「自由主義史観」批判と歴史教育の課題」

(3) 部落問題・人権関係逐次刊行物

- 〈ア〉
『明日を拓く』106・107号(東日本部落解放研究所、1998年3月)
- ・武藤啓司「『同和』教育の成果とは何か “人権教育への再編成ではなく教育の再編成へ”」
- 〈ウ〉
『ウインズ・風』第14号(福岡県同和教育研究協議会、1998年3月)
- ・池田 寛「地域に根ざした人権教育の創造」
『ウインズ・風』第15号(福岡県同和教育研究協議会、1998年7月)
- ・加来宣幸「確かな実践の道を」
『ウインズ・風』第16号(福岡県同和教育研究協議会、1998年9月)
- ・長尾彰夫「『同和』教育を通して総合学習を展望する」
- ・直方市下境小学校「こんな授業やっています」
『ウインズ・風』第17号(福岡県同和教育研究協議会、1998年12月)
- ・北九州市立足原小学校「こんな授業やっ

- てます」
- 〈カ〉
『解放教育』363号(明治図書、1998年3月)
- ・中山秀雄「大阪市における教育改革の課題」
- ・長尾彰夫「現代の教育政策どうとらえるか」
- ・平沢安政「解放教育における授業改革と人権教育」
- ・森 実「同和教育と人権教育の関連について」
- ・八木良治「人権文化にあふれた高校づくりをめざして」
- ・赤尾勝己「中高一貫教育と通学区域弾力化についての評価」
- ・池田 寛「地域教育改革の課題について」
- ・桂 正孝「解放教育のあらたなフレームワーク構築を」
- ・大同教事務局「大阪府の教育改革の現状と課題」
- ・高田一宏「子育て困難層の支援を考える」

- 〈ハ〉
- 『はらっぱ』173号(子ども情報研究センター、1998年4月)
- ・「実践・同和保育 同和保育の広がりについて1」
- 『はらっぱ』174号(子ども情報研究センター、1998年5月)
- ・鈴木祥蔵「共同フォーラム保育一元化① 幼保一元化の現状と課題」
 - ・土田光子「子どもの人生を子どもに返そう」
 - ・奥谷俊彦「障害のある子どもの権利と子どもの権利条約」
 - ・岩永幸江「義務教育にCAPを」
 - ・中川喜代子「人権教育は生涯にわたる私たちの学習課題」
 - ・木場康文「子どもの権利条約と青少年行政：大阪府の施策と課題」
 - ・「大阪府内自治体子どもの権利調査」
 - ・「インタビュー／野口克海さん(前堺市教育長)」
- 『はらっぱ』175号(子ども情報研究センター、1998年6月)
- ・夏井 賢「地域教育会議の取り組み」
 - ・玉置章子「実践・同和保育 同和保育の広がりについて2」
- 『はらっぱ』176号(子ども情報研究センター、1998年7月)
- ・玉置章子「実践・同和保育 仲間とともに育つ」
- 『はらっぱ』177号(子ども情報研究センター、1998年8月)
- ・野澤正子「児童福祉法改正と保育所」
 - ・井上寿美「子ども主体の保育制度を創ろう！」
 - ・「座談会／今、子育てに求められていること」
 - ・森田明美「共同フォーラム保育一元化 第二回 保育一元化の実現に必要な視点」
 - ・竹田東洋士「自治体の子ども政策 豊中市子ども総合計画」
- 『はらっぱ』178号(子ども情報研究センター、1998年9月)
- ・玉置章子「実践・同和保育 保護者・地域とともに保育を1」
- 『はらっぱ』179号(子ども情報研究センター、1998年10月)
- ・玉置章子「実践・同和保育 保護者・地域とともに保育を2」
 - ・芹沢俊介「内面と表情を隔てている壁 『子どもたちの心のゆくえ』」
 - ・大谷恭子「地域で共に、を求めて『原則統合への道すじを探る』」
- 『はらっぱ』180号(子ども情報研究センター、1998年11月)
- ・林 浩康「『今、施設で生活する子どもたち』調査から」
 - ・桜井智恵子「児童養護施設に暮らす子どもの権利保障と自立支援」
 - ・「インタビュー 児童養護施設と学校の連携、協働の中で 新保真紀子さん」
 - ・武藤義男「子どもが主人公の学校改革 三春町の教育改革」
- 『はらっぱ』181号(子ども情報研究センター、1998年12月)
- ・玉置章子「実践・同和保育 人権保育としての同和保育1」
 - ・岩堂美智子「地域で子育て・子育て支援を『子育てカウンセリングの意味』」
- 『はらっぱ』182号(子ども情報研究センター、1999年1月)
- ・玉置章子「実践・同和保育 人権保育としての同和保育2」
- 『はらっぱ』183号(子ども情報研究センター、1999年2・3月)
- ・森田ゆり「子どもたちのエンパワメント—子ども支援の視点」
 - ・堀 正嗣「共同フォーラム保育一元化 第四回 子どもの育ちを支える地域づ

- ・「II. 人権文化を豊かに育てる総合学習を」
- ・「〈バトル〉を超えて」
- ・「資料*差別の現実から学び、未来を紡ぐために」
- ・J・プランティリア／園崎寿子訳「アジア太平洋地域の人権教育」
- ・武者小路公秀「ムシャさんの人権セミナー」
- 『人権教育』6号(明治図書、1998年12月)
- ・クラレンス・ディアス／小森芽棋美訳「人権教育：重大な岐路、あるいは実現の第一歩？」
- ・ナンシー・フラワーズ／園崎寿子訳「米国における人権教育」
- ・ロビン・スクラファニー／山下 泉訳「人種差別と闘うある高校の事例」
- ・ロバート・フランシス・ガルシア／山下 泉訳「喩え話と民衆教育」
- ・小西辰郎／朴 君 愛共訳「人権教育への権利—人権教育の原則と課題—アジア・太平洋地域人権教育ワークショップの提言」
- ・森 実「ハロー PEPE! サラマート! —人権教育を求めるフィリピンへの旅〈セ〉」
- 『青鶴』第10・11号(大阪国際理解教育研究センター、1998年7月)
- ・奈良県外国人教育研究会「奈良発・高校現場における外国人教育の現状」
- ・大阪府立学校在日外国人教育研究会進路保障部会「大阪の高校から見た在日外国人生徒の進路」
- ・辻本久夫「在日韓国朝鮮人に対する兵庫の子ども意識調査報告 国際的環境における生徒の意識調査—在日韓国朝鮮人生徒との関係を中心に—」
- 『正論』311号(産経新聞社、1998年7月)
- ・青葉みさを「私が「在日」教育研究指定校で体験したこと」
- 『正論』312号(産経新聞社、1998年8月)
- ・上杉千年「反日教育の牙城「広島解放区」の落日」
- 『正論』314号(産経新聞社、1998年10月)
- ・野牧雅子「「人権在日教育」、二つの報告書」
- 『正論』320号(産経新聞社、1999年1月)
- ・上杉千年「「広島解放区」にうごめく教員組合と校長会」
- 『正論』321号(産経新聞社、1999年5月)
- ・田中一男「校長はなぜ自殺したか〜広島現場教師が勇気をふるって訴える!」
- ・石橋良三「広島教育界の遺影に捧げる」
- ・亀井郁夫 聞き手・大島信三「広島教育の祖、解放同盟県連にもの申す」
- 『世界』645号(岩波書店、1998年2月)
- ・寺脇 研・宮台真司「対談「学校」をどう変えていくのか」
- 『世界』649号(岩波書店、1998年6月)
- ・田中 宏「国立大は外国人学校に門を開け」
- 『世界』652号(岩波書店、1998年9月)
- ・信田さよ子「親のせい、子どものせい」
- 『世界の労働』48巻11号(日本ILO協会、1998年11月)
- ・中野育男「職業能力の開発と職業教育のあり方—スイスの事例から—」
- 『前衛』702号(日本共産党委員会、1998年8月)
- ・石井郁子「子どもたちが学び育つ学校への視点」
- 〈チ〉
- 『中央公論』1372号(中央公論社、1998年10月)
- ・中井浩一「公立高校はこんなに変わる—福岡県立城南高校三年間の試み」
- 佐藤 学『NHK 人間大学 家族の闇をさぐる—現代の親子関係』(日本放送出版協会、1998年7月)

- 会、1998年12月)
- ・ 亀井浩明「学校の機能の地域化—子育ての支援—」
 - ・ 三沢昌子「子育て NPO の可能性」
 - ・ 野口桂子「地域住民の、地域住民による、子どもたちのための教育」
『社会教育』643号（全日本社会教育連合会、1999年4月）
 - ・ 中澤智恵「子どもにとって魅力ある公民館」
 - ・ 竹迫和代「参加型から参画型へ“学びの場”の転換へのチャレンジ」
『社会問題研究』118号（大阪府立大学社会福祉学部、1998年3月）
 - ・ 倉石哲也「児童家庭福祉転換期における家族援助の展望」
『社会福祉研究』70号（鉄道弘済会、1997年10月）
 - ・ 西原雄次郎「社会福祉専門教育における人権教育のあり方」
『ジュリスト』1133号（有斐閣、1998年5月）
 - ・ 青木宏治「「規制緩和」「分権」と教育人権」
『少年育成』509号（大阪少年補導協会、1998年8月）
 - ・ 山下陽子「女性捜査班「アイ（愛）・キャッチャー」の一員として」
 - ・ 青少年問題審議会「問題行動への対策を中心とした青少年の育成方策について」
 - ・ 中塚恒子「児童臨床の現場から」
『少年育成』511号（大阪少年補導協会、1998年10月）
 - ・ 興津進康「児童臨床の現場から」
『少年育成』513号（大阪少年補導協会、1998年12月）
 - ・ 埋橋玲子「教育改革法制定10年後のイギリス」
『少年育成』514号（大阪少年補導協会、1999年1月）
 - ・ 埋橋玲子「教育改革法10年後のイギリス②」
『少年育成』515号（大阪少年補導協会、1999年2月）
 - ・ 遠藤 治「“自立”以前の問題」
 - ・ 埋橋玲子「教育改革法制定10年後のイギリス③」
 - ・ 西嶋嘉彦「児童自立支援施設の行方」
『少年育成』516号（大阪少年補導協会、1999年3月）
 - ・ 濱家敦子「被虐待経験を持つ母親の子育てへの援助」
 - ・ 亀岡智美「虐待を受けた子ども達の育ちへの援助」
 - ・ 亀井明子「CAP の精神に共感して」
 - ・ 小林桂子「今どきの子どもたち（63）くもん子ども調査より」
『諸君！』31巻5月号（文藝春秋、1999年5月）
 - ・ 野中恭太郎「「日の丸・君が代」がそんなに憎いか」
 - ・ 波多野里望「児童の権利条約」
『人権と教育』29号（障害者の教育権を実現する会、1998年11月）
 - ・ 松友 了「「支えの教育」を目指して」
『人権教育』3号（明治図書、1998年4月）
 - ・ 坪井眞規子「子どもが自分で自分を守る？」
 - ・ 峰 司郎「元気の出る人権教育をめざして」
 - ・ 森 実「Z市における雇用実態調査」
 - ・ 坂本研二「これでいいのか～！参加型学習これでいいのだ～！参加型学習」
『人権教育』4号（明治図書、1998年7月）
 - ・ 田中義信「根深い教育の病弊をどう打破するか」
『人権教育』5号（明治図書、1998年10月）
 - ・ パネルディスカッション「子どもが生きる「授業改革」を」
 - ・ 「I. 同和教育の継承から参加型学習へ」

『現代のエスプリ』376号(至文堂、1998年11月)

- ・滝澤武久「教育と内発的動機づけ」
『現代のエスプリ』377号(至文堂、1998年12月)

- ・伊藤武彦「偏見とカウンセリング」
<コ>

『国際理解』29号(帝塚山学院大学国際理解研究所、1998年3月)

- ・山下邦明訳「『国際理解・国際協力・国際平和に関する教育並びに人権及び基本的自由に関する教育勧告』の実施に関する6年間進捗状況報告書」

- ・岡崎 裕「国際理解教育における参加型学習方式に関する考察」

『子どもの権利条約』3号(エイデル研究所、1999年2月)

- ・「特集：地域・自治体と子どもの権利条例」

『月刊子ども論』144号(クレヨンハウス、1998年10月)

- ・内田良子他「(座談会)自己チュー児と学級崩壊」

<シ>

『月刊社会教育』505号(国土社、1997年12月)

- ・松下麻里美「地域ぐるみの子育ち支援」
- ・星野修美「差別をなくしていく人権学習」

『月刊社会教育』508号(国土社、1998年3月)

- ・川島克之「子育て政策を取り巻く動向とその課題について」
- ・武井香代子「公民館から広がれ、いきいき子育て」
- ・島田聖子「子ども・高齢者の交流をとおしての居場所づくり」
- ・松崎頼行「自治体の自己決定権と教育行政の政策能力形成」
- ・「資料／生涯学習審議会の論点整理につ

いて 平成八年度社会教育調査速報より」

『月刊社会教育』511号(国土社、1998年6月)

- ・島田修一／佐藤 智／平塚真樹／岩辺泰史／司会 太田政男「座談会／地域の教育を共同の力でどう進めるか」

『月刊社会教育』515号(国土社、1998年10月)

- ・吉田嘉秀「インターネットを使った社会教育実践の面白さと可能性(1)」

『月刊社会教育』520号(国土社、1999年2月)

- ・佐藤一子／上杉孝實／藤岡貞彦／朝岡幸彦(司会)「おとなが学ぶことの意味(座談会)生涯学習と社会参加」

- ・「資料／「公民館の設置及び運営に関する基準」の一部改正について<文部省通知>」

『月刊社会教育』521号(国土社、1999年3月)

- ・後藤道夫「民衆的教育の生涯体系像を考える」

- ・石井山竜平「地方分権と社会教育法制度」

- ・丹羽 徹「憲法からみた教育法改革」

『月刊社会教育』522号(国土社、1999年4月)

- ・仲間恵子「博物館と市民意識」

『社会教育』627号(全日本社会教育連合会、1998年9月)

- ・濱野秀彦「『住民参加型・地域活動支援型の生涯学習事業についての調査研究』の結果から」

『社会教育』629号(全日本社会教育連合会、1998年11月)

- ・生涯学習審議会「社会の変化に対応した今後の社会教育行政の在り方について(答申1998年9月17日)」

『社会教育』630号(全日本社会教育連合

- ・易 寿巳「私たちの街肌で感じて一地域に根ざした松原三中「ハローワーク」(職場体験)」
『教育 PRO』1081号(日本教育総合研究所、1999年2月)
- ・「資料／東京都「教員の人事考課に関する研究会」中間まとめ(論点整理)」
〈ケ〉
『研究紀要』15号(子ども情報研究センター、1998年5月)
- ・松尾純代「子育ての権利を求めて」
- ・黒川衣代「思春期に向けた子育て―「視界ゼロ」時代の親子コミュニケーション」
『現代』5号(講談社、1999年5月)
- ・鎌田 慧「「サラリーマン自殺ファイル」最終回“君が代斉唱せず”を決断した校長の苦悩」
『現代教育科学』497号(明治図書、1998年3月)
- ・田中耕治「学力調査に対する重層的な分析を」
『現代教育科学』498号(明治図書、1998年4月)
- ・桂 正孝「生涯学習社会の学校像が見えない」
『現代教育科学』500号(明治図書、1998年6月)
- ・長尾彰夫「「学級崩壊」後の学校づくり」
- ・村川雅弘「学校の教育課程の中にどう位置づけるか」
『現代教育科学』501号(明治図書、1998年7月)
- ・村川雅弘「道德教育・情報教育との関連をどう図るか」
『現代教育科学』502号(明治図書、1998年8月)
- ・押谷由夫「子どもと教師の人権を大切にしたい学校を」
『現代教育科学』506号(明治図書、1998年12月)
- ・村川雅弘「具体的な学習課題をどう設定するか」
『現代教育科学』508号(明治図書、1999年1月)
- ・村川雅弘「二重・三重の支援態勢をどう組織するか」
『現代教育科学』509号(明治図書、1999年2月)
- ・長尾彰夫「「総合的な学習の時間」へのポリテックス分析を」
- ・野口克海「How でなく Why から」
- ・村川雅弘「学習評価をどう考え、どう実践するか」
- ・「21世紀の大学像と今後の改革方策について①大学審答申」
『現代教育科学』511号(明治図書、1999年4月)
- ・森 実「参加型人権教育への招待」
- ・明石要一「学校の集団的機能を見直そう」
- ・長尾彰夫「なぜ、いま、特色ある「学校づくり」なのか」
『現代教育科学』513号(明治図書、1999年6月)
- ・長尾彰夫「連載／特色ある学校づくりを求めて・3 教育行政の責任と役割はどこに」
- ・森 実「連載／参加型の人権教育・3 東アジアへのつながりと人権教育」
- ・脇田 学「人権総合学習を楽しむための方法序説」
- ・橋本規子「ぬのしょう、タウン・ワークスの取り組み」
- ・野口克海「「重い課題」を「地下茎」として」
- ・川向秀武「人権文化学習は、「総合学習」を批判的に生かすことから」
- ・桂 正孝「人権文化学習の視座と主題の選択基準」

- 一、1999年2月)
- ・「修士課程を積極的に活用した教員養成の在り方について-現職教員の再教育推進-教育職員養成審議会(答申全文)」『教育評論』624号(アドバンテージサーバー、1999年3月)
- ・三浦孝啓「変わってゆく学校教育 これからの教育改革の中で」『教育 PRO』1044号(日本教育総合研究所、1998年5月)
- ・「資料・学校の「抱え込み」から開かれた「連携」へ-問題行動への新たな対応-(下):児童生徒の問題行動等に関する調査研究協力者会議」『教育 PRO』1045号(日本教育総合研究所、1998年5月)
- ・「資料・新しい時代を拓く心を育てるために一次世代を育てる心を失う危機-:中央教育審議会(心の教育)中間報告要旨(上)」『教育 PRO』1046号(日本教育総合研究所、1998年5月)
- ・「資料・新しい時代を拓く心を育てるために一次世代を育てる心を失う危機-:中央教育審議会(心の教育)中間報告要旨(下)」『教育 PRO』1066号(日本教育総合研究所、1998年10月)
- ・中教審答申「資料/今後の地方教育行政の在り方について」
- ・岩井彌一「人権教育への取り組み(1)基本的人権」『教育 PRO』1067号(日本教育総合研究所、1998年11月)
- ・中教審答申「高等教育費 GNP の1%は必要」『教育 PRO』1069号(日本教育総合研究所、1998年11月)
- ・中教審答申「今後の地方教育行政の在り方について」
- 『教育 PRO』1070号(日本教育総合研究所、1998年11月)
- ・大学審答申「21世紀の大学像と今後の改革方策について資料①」
- 『教育 PRO』1071号(日本教育総合研究所、1998年11月)
- ・大学審答申「21世紀の大学像と今後の改革方策について資料②」
- 『教育 PRO』1072号(日本教育総合研究所、1998年12月)
- ・大学審答申「21世紀の大学像と今後の改革方策について資料③」
- 『教育 PRO』1073号(日本教育総合研究所、1998年12月)
- ・大学審答申「21世紀の大学像と今後の改革方策について資料④」
- 『教育 PRO』1074号(日本教育総合研究所、1998年12月)
- ・大学審答申「21世紀の大学像と今後の改革方策について資料⑤」
- 『教育 PRO』1075号(日本教育総合研究所、1998年12月)
- ・大学審答申「21世紀の大学像と今後の改革方策について資料⑥」
- 『教育 PRO』1076号(日本教育総合研究所、1999年1月)
- ・尾前照雄ほか「マクロ的視野持ち日本再生」
- ・辻村哲夫ほか「新しい学習指導要領~実践への戦力さぐる」
- 『教育 PRO』1077号(日本教育総合研究所、1999年1月)
- ・「自己責任迫られる多様社会」
- ・「新しい学習指導要領」
- 『教育 PRO』1078号(日本教育総合研究所、1999年1月)
- ・「感動する心を持ったプロに~来世紀の人づくりに求められるもの③」
- ・「新しい学習指導要領~実践への戦略をさぐる」

- 在り方について（中間報告）」
『教育委員会月報』579号（第一法規出版、1998年5月）
- ・政策課「新しい時代を拓く心を育てるために一次世代を育てる心を失う危機—」
『教育委員会月報』583号（第一法規出版、1998年9月）
 - ・政策課「中央教育審議会「幼児期からの心の教育の在り方について」答申の概要」
 - ・職業教育課「理科教育及び産業教育審議会答申「今後の専門高校における教育の在り方等について」」
『季刊教育法』113号（エイデル研究所、1997年12月）
 - ・黒沢惟昭「地域社会と高校の脱構築」
『教育評論』614号（アドバンテージサーバー、1998年6月）
 - ・浜田寿美男「「中間報告」は空しい標語集：ほんとうに心は教えられるものなのだろうか」
 - ・三浦孝啓「ふたつの中間報告から見えるもの」
 - ・本藤慶一「全ての人々のパートナーシップで築く教育の地方分権」
 - ・日本教職員組合中央執行委員会「中教審「今後の地方教育行政の在り方について」」
 - ・中央教育審議会「新しい時代を拓く心を育てるために一次世代を育てる心を失う危機—」
『教育評論』616号（アドバンテージサーバー、1998年8月）
 - ・佐藤和夫「ジェンダーの視点から見た今日の教育危機」
 - ・樋口けい子「学校のジェンダー・フリーを考える」
『教育評論』617号（アドバンテージサーバー、1998年9月）
 - ・長尾彰夫「21世紀へのカリキュラム改
 - 革」
 - ・田中節雄「注目される「学力観の転換」」
 - ・田中統治「改善に必要な視点は打ち出されたか」
 - ・中島一夫「高校教育を変えられるか」
 - ・森田明美「幼稚園機能の「保育所化」の現状と今後の課題」
 - ・岩井貞雄「「底辺」校からの悲しき脱出策—茶髪事件からの問題の本質をさぐる」
 - ・中島通子「なぜ、ジェンダーが教育にとって問題なのか—「ジェンダーと教育研究委員会」中間報告」
『教育評論』618号（アドバンテージサーバー、1998年10月）
 - ・森 実「「道徳の時間」を「人権の時間」へ」
 - ・黒沢惟昭「教課審答申を生涯学習の視点から読む」
 - ・長尾彰夫「総合学習をどうとらえるか」
 - ・嶺井正也「「サラマンカ宣言」を読んでほしい」
 - ・日本教職員組合中央執行委員会「教育課程審議会答申に対する日教組見解」
『教育評論』619号（アドバンテージサーバー、1998年11月）
 - ・横山英一「漸進的に進んでいく教育の地方分権」
『教育評論』620号（アドバンテージサーバー、1998年12月）
 - ・三浦孝啓「コメンタール・中教審答申」
『教育評論』621号（アドバンテージサーバー、1999年1月）
 - ・黒沢惟昭「教育総研レポート47教育総研の人権学習講座について」
 - ・「今後の地方教育行政の在り方について（中央教育審議会答申）」
 - ・生涯学習審議会「「社会の変化に対応した今後の社会教育行政の在り方について」の概要」
『教育評論』622号（アドバンテージサーバー

山下恒男「基調報告—共生時代と民族的マイノリティの教育」『子どもという不安—情報社会の「リアル」—』（現代書館、1993年7月）

〈ヨ〉

吉川 徹『階層・教育と社会意識の形成』

（ミネルヴァ書房、1998年3月）

〈ロ〉

労働省職業能力開発局能力開発課監修／労働問題リサーチセンター編集『社会人大学院生の実像発見』（大蔵省印刷局、1996年9月）

(2) 逐次刊行物

〈カ〉

『学校運営研究』481号（明治図書、1998年6月）

・野口克海「連載／2002年までになにをどうする！〈第3回〉教育界の不良債権」『学校運営研究』482号（明治図書、1998年7月）

・長尾彰夫「提案は興味深い。しかし効果は」

・野口克海「一人ひとりができる教育改革がある」

『学校運営研究』483号（明治図書、1998年8月）

・神原文子「小・中学生の親の世代間比較」

・松原達哉「家庭教育」をめぐる最近の論点・論争紹介」

・野口克海「ニュージーランドの教育改革から」

・安達拓二「家庭教育の相談体制の在り方で報告書」

『学校運営研究』484号（明治図書、1998年9月）

・斎藤 勝「足元からの教育改革—学校と家庭・地域社会との連携」

『学校運営研究』485号（明治図書、1998年10月）

・野口克海「中学校に悩みが集中」

・館野健三「今こそ、家庭の教育力の復活を」

『学校運営研究』486号（明治図書、1998年10月）

・野口克海「中学校に悩みが集中」

『学校運営研究』487号（明治図書、1998年11月）

・野口克海「K君への手紙」

『学校運営研究』488号（明治図書、1998年12月）

・今谷順重「総合的学習と教科クロス授業への取り組み」

・野口克海「“週末こそパパとママはボクのもの”」

『学校運営研究』489号（明治図書、1999年1月）

・野口克海「大阪版教育改革の動向」

『学校運営研究』490号（明治図書、1999年2月）

・村川雅弘「“総合的学習”で特色をだす—どんな取り組みが可能か」

・野口克海「学力観を変える」

『学校運営研究』492号（明治図書、1999年3月）

・野口克海「これしかない！「地域の力」」

『学校運営研究』494号（明治図書、1999年5月）

・徳久治彦「特別インタビュー・総合的学習の時間の生まれた背景とその考え方」

『関西大学人権問題研究室紀要』36号（関西大学、1997年12月）

・田宮 武「元気が出る同和教育—大学生のアンケート調査にもとづいて—」

〈キ〉

『教育委員会月報』578号（第一法規出版、1998年4月）

・中央教育審議会「今後の地方教育行政の

<ハ>

浜田寿美男「いじめの回路を断つために」
『岩波講座 現代の教育 第4巻 いじめと不登校』(岩波書店、1998年4月)

浜田寿美男『いま子どもたちの生きるかたち』(ミネルヴァ書房、1998年3月)

浜田寿美男「生きるかたちを伝える場としての学校」『岩波講座 現代の教育 第12巻 世界の教育改革』(岩波書店、1998年12月)

朴 君 愛「アジアの取り組みを中心に・アジアの人権教育の取り組みの一端にふれて」『IMADR-JCブックレット4 一緒に考えてみませんか これからの人権教育』(解放出版社、1999年2月)

早川勝広・森田明美「第12分科会幼年期の教育と保育問題」『日本の教育第47集』(一ツ橋書房、1998年7月)

反差別国際運動日本委員会編『IMADR-JCブックレット4 一緒に考えてみませんか これからの人権教育』(解放出版社、1999年2月)

<フ>

藤田 修『普通学級での障害児教育』(明石書店、1998年6月)

藤田英典「教育改革の論理と構造」『岩波講座 現代の教育 第12巻 世界の教育改革』(岩波書店、1998年12月)

<ホ>

堀 正嗣『障害児教育とノーマライゼーションー「共に生きる教育」をもとめて』(明石書店、1998年1月)

<マ>

慎 英弘『教育のバリアフリーを シンポジウムー視覚障害児統合教育を展望する全記録障害者問題資料センター』(りぼん社、1998年5月)

松下一世『子どもの心がひらく人権教育』(部落解放・人権研究所、1999年3月)

<ミ>

ミッシェル・エリオットジェーン／キルパトリック共著／平野祐二訳『いじめに立ち向かう』(アドバンテージサーバー、1997年9月)

民族教育ネットワーク「記念シンポジウム「共生社会と民族教育」」『民族教育と共生社会』(東方出版、1999年1月)

<ム>

村川雅弘『総合的学習のすすめ』(日本文教出版株式会社、1997年9月)

村越末男『21世紀の課題～平和・人権・環境～』(現代教育社、1999年2月)

武藤義男／井田勝興／長澤 悟『やればできる学校革命 夢をはぐくむ教育実践記』(日本評論社、1998年5月)

<モ>

森 楸「子ども研究の動向と課題」『教育社会学研究第63集 特集子どもを読みとく』(東洋館出版社、1998年10月)

森 実「I. 人間解放をめざすカリキュラム創造」中村拓三監修／解放教育研究所編『シリーズ解放教育の争点 第3巻 人間解放のカリキュラム』(明治図書、1997年10月)

森 実『参加型学習がひらく未来「人権教育10年」と同和教育』(部落解放・人権研究所、1998年12月)

森田ゆり「子どものエンパワメントを中心に・エンパワメントと子どもの人権」『IMADR-JCブックレット4 一緒に考えてみませんか これからの人権教育』(解放出版社、1999年2月)

森山沾一「第24分科会地域における教育改革」『日本の教育第47集』(一ツ橋書房、1998年8月)

<ヤ>

安川寿之輔『日本近代教育と差別一部落問題の教育史的研究一』(明石書店、1998年2月)

- と死の問題」
- ・横島 章「第5章 同和問題・同和教育」
- 中村拓三監修／解放教育研究所編『シリーズ解放教育の争点 第3巻 人間解放のカリキュラム』(明治図書、1997年10月)
- 中村拓三監修／解放教育研究所編『シリーズ解放教育の争点 第5巻 地域教育システムの構築』(明治図書、1997年7月)
- 中村水名子『国際理解教育の構想とその展開中学校における特別活動を中心に』(大阪市教育センター、1998年3月)
- 奈良県生活環境部県民生活課編『「人権教育のための国連10年」奈良県行動計画』(奈良県生活環境部県民生活課、1998年3月)
- 中島智子『多文化教育—多様性のための教育学』(明石書店、1998年11月)
- 長尾彰夫『総合学習をたのしむシリーズ「カリキュラム改革としての総合学習」第1巻』(アドバンテージサーバー、1999年2月)
- 長尾彰夫／三宅都子『生きること・働くことシリーズ「カリキュラム改革としての総合学習」第2巻』(アドバンテージサーバー、1999年2月)
- 長尾彰夫／脇田 学『人権文化を拓くシリーズ「カリキュラム改革としての総合学習」第3巻』(アドバンテージサーバー、1999年2月)
- 長尾彰夫／塩崎勝彦『環境にはたらきかけるシリーズ「カリキュラム改革としての総合学習」第4巻』(アドバンテージサーバー、1999年2月)
- 長尾彰夫／善元幸夫『地域と結ぶ国際理解シリーズ「カリキュラム改革としての総合学習」第5巻』(アドバンテージサーバー、1999年2月)
- 長尾彰夫／森田英嗣『情報・メディア・図書館シリーズ「カリキュラム改革としての総合学習」第6巻』(アドバンテージサーバー、1999年2月)
- <ニ>
- 西澤 哲『子どものトラウマ』(講談社、1997年10月)
- 西田芳正「第3章 内なる異文化へのまなざし—エスノグラフィー実践を導くもの」『教育のエスノグラフィ』(嵯峨野書院、1998年6月)
- 日本教職員組合人権教育委員会『これからの人権教育—その視点・内容・方法—』(アドバンテージサーバー、1998年10月)
- 日本教職組合『学校を変える～子どもの権利条約実践ハンドブック VOL.3』(アドバンテージサーバー、1997年6月)
- ・前田 健／渡辺信一／中村 香「総合学習に位置付けた「子どもの権利条約の学習」」
- 日本女性学会『女性学 VOL6』(新水社、1998年11月)
- ・太田ふみ子「「ジェンダー」が市民権を得るまで～性教育の多様化からスタートして～」
 - ・賀谷恵美子「男女共学の内実と男女平等教育～公立高校の現場から～」
 - ・舘 かおる「学校におけるジェンダー・フリー教育と女性学」
 - ・日本の教育改革をともに考える会編『ジェンダーの視点から教育改革を考える』(フォーラム・A、1999年2月)
 - ・日本の教育改革をともに考える会編『ともに生きる総合学習』(フォーラム・A、1999年2月)
- <ノ>
- 野口克海『ボトム・アップの教育改革—界からの発信』(三晃書房、1998年4月)

- 志水宏吉「新しい中等学校像を求めて」『岩波講座 現代の教育 第12巻 世界の教育改革』(岩波書店、1998年12月)
- 志水宏吉「学校=同化と排除の文化装置被差別部落民の経験から」『岩波講座 現代社会学12 こどもと教育の社会学』(岩波書店、1996年7月)
- 下橋邦彦『挑発する教育・格闘する若者』(勉誠出版、1998年10月)
- ジル・ウィルソン著／松村京子訳『子どもの虐待をなくすために』(東信堂、1998年3月)
- ジョージ・J・アンドレオポクス／リチャード・ピエール・クロード編著『世界の人権教育—理論と実践—』(明石書店、1999年2月)
- 人権教育啓発推進センター編『人権文化フォーラム世界人権宣言50周年を迎えて人権教育のための国連10年を推進するために』(人権教育啓発推進センター、1998年2月)
- 「人権教育のための国連10年」推進委員会編『わたしたちの課題 VOL.2 人権教育のための国連10年』(「人権教育のための国連10年」推進委員会、1998年3月)
- 人権と仲間関係研究会『人権と仲間関係97』(解放出版社、1997年6月)
- 真仁田 昭／深谷和子／田上不二夫／有村久春『子どものストレス親・教師のストレス上手な解消法とつきあい方』(金子書房、1998年12月)
- <ス>
- 鈴木敏正『エンパワーメントの教育学』(北樹出版、1999年2月)
- ステファニー・ジャドソン『静かな力』(嵯峨野書院、1995年12月)
- <セ>
- 全国保険団体連絡会保育研究所編『保育白書1998年版』(草土文化、1998年7月)
- 全米ソーシャルワーカー協会『スクールソ
- ーシャルワークとは何か—その理論と実践—』(現代書館、1998年12月)
- <タ>
- 田中圭治郎『多文化教育の世界的潮流』(ナカニシヤ出版、1996年10月)
- 田中孝彦「誰が教育を改革するのか」『岩波講座 現代の教育 第12巻 世界の教育改革』(岩波書店、1998年12月)
- 多文化社会研究会編訳「第3章 多文化教育のためのカリキュラム・ガイドライン」『多文化主義』(木鐸社、1997年9月)
- 玉置哲淳『人権保育のカリキュラム研究』(明治図書、1998年5月)
- <テ>
- 寺脇 研／向山洋一「寺脇研の問題提起」『教師としての「責任のとり方」』(明治図書、1998年3月)
- 寺脇 研『何処へ向かう教育改革「どうなる学校」の疑問に全回答』(主婦の友社、1998年9月)
- 寺脇 研『中学生を救う30の方法』(講談社、1998年9月)
- <ト>
- 外川正昭『同和教育におけるこれからの学力保障の諸問題1980年以降の学力状況の考察を通して』(京都市立永松記念教育センター、1998年3月)
- <ナ>
- 長尾彰夫「第25分科会学校五日制・教育課程」『日本の教育第47集』(一ツ橋書房、1998年8月)
- 中澤知恵「1章 私を書く物語を書く」『学びのスタイル生涯学習入門』(玉川大学出版部、1996年10月)
- 中村 清／横島 章編『人権を考える』(随想舎、1997年12月)
- ・横島 章「はじめに 授業「人権教育」の成立と経過」
 - ・中村 清「第2章 近代公教育の理念と現実」「第3章 教育における古い

- 教育を問う』(岩波書店、1998年1月)
 神原文子『同和地区における子育ての現状と課題に関する実証研究』(1999年3月)
 <キ>
 喜多明人他編『人権教育をつくる』(大月書店、1997年10月)
 木村涼子「ジェンダーの再生産と学校」『岩波講座 現代社会学12 こどもと教育の社会学』(岩波書店1996年7月)
 京都部落史研究所編『部落史をどのように教えるか』(京都部落史研究所、1998年7月)
 清原正義「第23分科会教育条件整備の運動」『日本の教育第47集』(一ツ橋書房、1998年8月)
 <ク>
 グラハム・バイク／ディヴィット・セルビー共著／中川喜代子監修／阿久澤麻理子訳『地球市民を育む学習』(明石書店、1997年11月)
 ・I. グローバル学習の理論
 ・II. グローバル学習のためのアクティビティ
 ・III. グローバル学習の環境づくり
 熊沢 誠「就職の現実—これからの職業教育論序説」『岩波講座 現代の教育 第12巻 世界の教育改革』(岩波書店、1998年12月)
 黒沢惟昭／浜田寿美男共著「第20分科会学習と評価・選抜制度と進路保障」『日本の教育第47集』(一ツ橋書房、1998年8月)
 黒崎 勲「学校教育の正当性と説明責任」『岩波講座 現代の教育 第12巻 世界の教育改革』(岩波書店、1998年12月)
 <コ>
 小泉義之「第4章性差別についての考え方」『人権を考える』(随想舎、1997年12月)
 小西清則「学校での取り組みを中心に・生活を高め、未来をきりひらく教育を」『IMADR-JCブックレット4 一緒に考えてみませんか』(解放出版社、1999年2月)
 厚生省児童家庭局『児童福祉法改正のポイント』(ぎょうせい、1997年10月)
 子ども情報研究センター編『「人権保育カリキュラム」への提言3』(子ども情報研究センター、1998年8月)
 小宮山博仁『「学校スリム化」時代の中学生学習塾を考える』(日本放送出版協会、1998年6月)
 <カ>
 佐伯 胖「学校の「脱・学校化」への試み」『岩波講座 現代の教育 第12巻 世界の教育改革』(岩波書店、1998年12月)
 佐伯 胖／黒崎 勲／佐藤 学／田中孝彦／浜田寿美男／藤田英典『岩波講座 現代の教育 第4巻 いじめと不登校』(岩波書店、1998年4月)
 佐伯 胖／宮崎清孝／佐藤 学／石黒広昭『心理学と教育実践の間で』(東京大学出版会、1998年9月)
 坂田次男「一解放教育の争点確かな関係を構築するために—」『シリーズ解放教育の争点 第3巻 人間解放のカリキュラム』(明治図書、1997年10月)
 佐藤一子『生涯学習と社会参加—おとなが学ぶことの意味—』(東京大学出版会、1998年10月)
 佐藤 学「学校改革の指標—学びの共同体へ—」『岩波講座 現代の教育 第12巻 世界の教育改革』(岩波書店、1998年12月)
 佐藤 学「12章文化的多元主義の中の「低学力」問題」『カリキュラムの批評』(世織書房、1996年12月)
 <シ>
 志水宏吉「第11分科会自治的諸活動と生徒指導」『日本の教育 第47集』(一ツ橋書房、1998年7月)

- ド・ランボー共著『男女平等の本』（ノルウェー男女平等の本を出版する会、1998年3月）
- 〈ウ〉
- 梅田昌彦他編『これからの同和行政・人権教育』（奈良県部落解放研究所、1998年6月）
- ・梅田昌彦「人権教育をどのように構築するか」
 - ・兵庫県教育委員会「人権教育基本方針」
- 〈エ〉
- エドワード・ジグラー／スーザン・ムエンチョー編『アメリカ教育革命～ヘッドスタート・プロジェクトの偉大なる挑戦』（学苑社、1994年6月）
- エリザベス・クレアリー『「親」をたのしむ5つのスキル』（築地書館、1998年8月）
- 〈オ〉
- おおさか・学校・エンパワメント委員会編著『おおさか・学校・エンパワメント～教育改革への実践的提言～』（日本教育新聞社、1998年11月）
- 大阪市同和教育研究協議会『地域にひらかれた学校づくりを WITH その2』（大阪市同和教育研究協議会、1998年11月）
- 大阪人権博物館と教育に関する研究プロジェクト『大阪人権博物館と教育に関する研究プロジェクト・報告書』（大阪人権博物館、1998年5月）
- 大阪同和保育研究協議会編『人権保育をすすめるための資料集』（大阪同和保育研究協議会、1998年）
- 大阪同和保育研究協議会編『人権保育カリキュラム』（大阪同和保育研究協議会、1998年）
- 大阪同和保育研究協議会編『女も男もかがやいてー0才からのジェンダーフリーー』（大阪同和保育研究協議会、1999年5月）
- 大阪府『同和問題の解決に向けた生涯学習推進のあり方について』（大阪府、1998年6月）
- 大阪府教育委員会編『人権教育基本方針 人権教育推進プラン』（大阪府教育委員会、1999年3月）
- 大阪府教育委員会社会教育課『大阪府識字学級・日本語読み書き教室等学習者調査報告書』（大阪府教育委員会社会教育課、1998年6月）
- 大阪府同和教育研究協議会編『わたし出会い発見 Part2』（大阪府同和教育研究協議会、1996年3月）
- 大阪府同和教育研究協議会編『「人権教育のための国連10年」大同教行動計画第二次案』（大阪府同和教育研究協議会、1998年1月）
- 大阪府同和教育研究協議会編『新しい人権教育』プロジェクト『わたし出会い発見 Part2 ちがいに気づき、豊かにつながる参加型の人権・部落問題学習プログラム・実践集』（大阪府同和教育研究協議会、1998年3月）
- 大阪府同和教育研究協議会進路保障専門委員会『大阪の進路保障』（大阪府同和教育研究協議会、1998年5月）
- 大場幸夫『外国人の子どもの保育一親たちの要望と保育者の対応の実態一』（萌文書林、1998年6月）
- 小川真知子／森 陽子編著『実践ジェンダー・フリー教育』（明石書店、1998年4月）
- 〈カ〉
- 柏女霊峰／山縣文治共著『新しい子ども家庭福祉』（ミネルヴァ房、1998年4月）
- 桂 正孝／森 実「第13分科会人権教育」『日本の教育第47集』（一ツ橋書房、1998年7月）
- 苅谷剛彦「新規学卒就職と出身階層」『日本労働社会学会年報』（日本労働社会学会、1996年12月）
- 姜 尚 中「教育のなかの差別と排除」『いま

資料

教育・地域関係文献目録

(1998年3月～1999年5月)

以下の目録は、本号特集の一環として、概ね1998年3月から1999年5月の間に発表された著作・論文を対象に、(1)単行本・冊子、(2)逐次刊行物、(3)部落問題・人権関係逐次刊行物に分類して掲載した。(1)は編著者の、(2)(3)は逐次刊行物名の50音順に配列した。

(1) 単行本・冊子

- 〈ア〉
- 赤尾勝己『生涯学習の社会学』(玉川大学出版部、1998年11月)
- 赤尾勝己『生涯学習概論—学習社会の構想—』(関西大学出版部、1998年3月)
- 赤尾勝己『学びのスタイル 生涯学習入門』(玉川大学出版部、1996年10月)
- ・「5章空間講座『地域をどう学ぶか』」
 - ・「6章公共施設の活用」
- 赤尾勝己／山本慶裕編著『学びのデザイン 生涯学習方法論』(玉川大学出版部、1998年6月)
- 赤尾勝己「第19分科会情報化社会と教育・文化活動」『日本の教育第47集』(一ツ橋書房、1998年7月)
- アジア・太平洋人権情報センター編『国際人権ブックレット4・問われる多文化共生』(アジア・太平洋人権情報センター、1998年3月)
- アジア・太平洋人権情報センター編『国際人権ブックレット5・子どものエンパワメントを考える』(アジア・太平洋人権情報センター、1999年2月)
- 『生涯発達と生涯学習』(放送大学教育振興会、1997年3月)
- ・麻生 誠「地域社会と生涯学習」
 - ・麻生 誠／堀 薫夫「生涯学習社会の可能性と課題」
- 葦田 万『教育ビックバンで学校が変わる 子どもたちと教師の明日』(実業之日本社、1998年11月)
- 安達 昇他『人間関係を豊かにする授業実践プラン50』(小学館、1997年11月)
- アナベル・ニューマン『読み書きの学び—成人基礎教育入門』(部落解放研究所、1998年4月)
- アリソン・ヴァートハイマー『障害児と共に学ぶ—イギリスのインクルーシブ教育』(明石書店、1998年9月)
- 安保則夫／領家 穰共著『人権教育研究の課題と展望』創刊号(関西学院大学人権教育研究室、1998年3月)
- 安保則夫「大学での取り組みを中心に・人権教育研究にかかわる〈知の発信基地〉として—大学の役割と課題」『IMADR-JCブックレット4 一緒に考えてみませんか これからの人権教育』(解放出版社、1999年2月)
- 〈イ〉
- 飯田 猛／飯田 俊／山岡勇治編『そこが知りたい!子育て支援・地域との交流』(世界文化社、1998年5月)
- 今泉 博／山崎隆夫『なぜ小学生が‘荒れる’のか』(太郎次郎社、1998年5月)
- 今野雅裕『事例に学ぶ 学校と地域のネットワーク』(ぎょうせい、1998年9月)
- 岩槻知也「4章時間講座『時間をつかまえる』」『学びのスタイル 生涯学習入門』(玉川大学出版部、1996年10月)
- インゲル・ヨハンネ・アルネセン／アウ